

Keiba Global Front Line

競馬グローバル・フロントライン

競馬の最前線で活躍する馬や人を紹介致します



合田 直弘

4月8日に英国のエイントリー競馬場で行われた障害の大一番G3クラシンドナショナル(芝34F74Y=約6877m)を、ワントフォーアーサー(セ8、父ミラン)で制した、ルシンダ・ラッセル調教師(50歳)が、今月のこのコラムの主役である。障害の距離体系の中でも突出して距離が長く、ましてやハンデ戦のため、格付けこそG3に甘んじているが、全世界で6億人がテレビを通じて観戦するという一大スポーツイベントがグランドナショナルだ。その勝者は馬も関係者も、一夜にして英國における国民的英雄となるが、17年の優勝トレーナーはことさらに話題に事欠かない人物であつただけに、レース後には競馬専門以外のメディアも含めて取材が殺到し、一躍時の人となっている。

話題のその1は、同師が女性であること。グランドナショナルは、83年にジエニーピットマンがコルビエールで制して女性

調教師として初優勝。同師が95年にロイヤルアスリートで2度目の優勝を果たした後、09年にヴェネディア・ウイリアムスがモンモームで、13年にスー・スマスがオーロラスエンコアで制しているから、史上4人目に5度目の快挙となつたわけだ。

話題のその2は、ラッセル師の厩舎は工

場の北にあるキンロスという、行政区域で言えばスコットランドに属する地域にあること。スコットランド調教馬によるグランドナショナル優勝は、79年のラスティック以来、38年ぶり2頭目という稀有な壮挙だったのだ。

そして話題のその3は、ラッセル厩舎のアシスタントにして、ラッセル師の内縁の夫となっているのが、障害競走の元スター騎手ピーター・スクューダモア(58歳)であること。70年代終盤から90年代前半にかけて騎乗し、リーディングの座に8度も就いたのがスキューダモアで、88／89年シーズンには当時の年間最多勝記録の22大スポーツイベントがグランドナショナルで、その勝者は馬も関係者も、一夜にして英國における国民的英雄となるが、17年の優勝トレーナーはことさらには話題に事欠かない人物であつただけに、レース後には競馬専門以外のメディアも含めて取材が殺到し、一躍時の人となっている。

話題のその1は、同師が女性であること。グランドナショナルは、83年にジエニーピットマンがコルビエールで制して女性調教師として初優勝。同師が95年にロイヤルアスリートで2度目の優勝を果たした後、09年にヴェネディア・ウイリアムスがモンモームで、13年にスー・スマスがオーロラスエンコアで制しているから、史上4人目に5度目の快挙となつたわけだ。

話題のその2は、ラッセル師の厩舎は工

地場の北にあるキンロスという、行政区域で言えばスコットランドに属する地域にあること。スコットランド調教馬によるグランドナショナル優勝は、79年のラスティック以来、38年ぶり2頭目といいう稀有な壮挙だったのだ。

そして話題のその3は、ラッセル厩舎のアシスタントにして、ラッセル師の内縁の夫となっているのが、障害競走の元スター騎手ピーター・スクューダモア(58歳)であること。70年代終盤から90年代前半にかけて騎乗し、リーディングの座に8度も就いたのがスキューダモアで、88／89年シーズンには当時の年間最多勝記録の22大スポーツイベントがグランドナショナルで、その勝者は馬も関係者も、一夜にして英國における国民的英雄となるが、17年の優勝トレーナーはことさらには話題に事欠かない人物であつただけに、レース後には競馬専門以外のメディアも含めて取材が殺到し、一躍時の人となっている。

現在のルシンダ・ラッセルは80頭余りの管理馬を抱え、トップトレーナーの一人に数えられる存在となっている。

ポイントトウボイントやハードドルで経験を重ねた後、ワントフォーアーサーがステークス・チエイス路線を歩み始めたのは昨シーズンからで、今季3戦目となつた前走ワーウィックのG3クラシックハンディキャップ(芝29F5y)を6馬身差で制して重賞初制覇を果たして臨んだのがグランドナショナルだった。

それにしても、である。3月に行われたたというルシンダ・ラッセルは、77年のレッドラムによる3度目のグランドナショナル制覇をテレビで見て、競馬の世界に対する強烈な憧れを抱いたという。開業したのは95年で、ようやく軌道に乗つたのが29勝を挙げてランキンギング22位に浮上した04／05年シーズンだった。10年2月にシリヴァーバイネーチャーでヘイドックのG3ブルースクエア・ゴールドCを制したのが

リーズでチャルトナムフェスティヴァルのG1スパノーヴィスハーダドルを制し、G1初制覇を果たしている。そして、13／14年シーズンには年間66勝を挙げ、レン・ランゴが02／03年シーズンに作った63勝を破り、スコットランドを拠点とする障害の調教師によるシーズン最多勝記録を樹立したのだった。

現在のルシンダ・ラッセルは80頭余りの管理馬を抱え、トップトレーナーの一人に数えられる存在となっている。

ポイントトウボイントやハードドルで経験を重ねた後、ワントフォーアーサーがステークス・チエイス路線を歩み始めたのは昨シーズンからで、今季3戦目となつた前走ワーウィックのG3クラシックハンディキャップ(芝29F5y)を6馬身差で制して重賞初制覇を果たして臨んだのがグランドナショナルだった。

それにしても、である。3月に行われたたというルシンダ・ラッセルは、77年のレッドラムによる3度目のグランドナショナル制覇をテレビで見て、競馬の世界に対する強烈な憧れを抱いたという。開業したのは95年で、ようやく軌道に乗つたのが29勝を挙げてランキンギング22位に浮上した04／05年シーズンだった。10年2月にシリヴァーバイネーチャーでヘイドックのG3ブルースクエア・ゴールドCを制したのが

リーズでチャルトナムフェスティヴァルのG1スパノーヴィスハーダドルを制し、G1初制覇を果たしている。そして、13／14年シーズンには年間66勝を挙げ、レン・ランゴが02／03年シーズンに作った63勝を破り、スコットランドを拠点とする障害の調教師によるシーズン最多勝記録を樹立したのだった。

現在のルシンダ・ラッセルは80頭余りの管理馬を抱え、トップトレーナーの一人に数えられる存在となっている。

ポイントトウボイントやハードドルで経験を重ねた後、ワントフォーアーサーがステークス・チエイス路線を歩み始めたのは昨シーズンからで、今季3戦目となつた前走ワーウィックのG3クラシックハンディキャップ(芝29F5y)を6馬身差で制して重賞初制覇を果たして臨んだのがグランドナショナルだった。

それにしても、である。3月に行われたたというルシンダ・ラッセルは、77年のレッドラムによる3度目のグランドナショナル制覇をテレビで見て、競馬の世界に対する強烈な憧れを抱いたという。開業したのは95年で、ようやく軌道に乗つたのが29勝を挙げてランキンギング22位に浮上した04／05年シーズンだった。10年2月にシリヴァーバイネーチャーでヘイドックのG3ブルースクエア・ゴールドCを制したのが